

# KYUSHU NEWS 九州

九州・山口の主な取材網

- ▽北九州支社 ☎093(561)1131 FAX093(561)7793
- ▽筑豊総局 ☎0948(22)3500 FAX0948(22)3503
- ▽久留米総局 ☎0942(32)5361 FAX0942(32)5363
- ▽佐賀総局 ☎0952(26)7181 FAX0952(23)8517
- ▽長崎総局 ☎095(822)0125 FAX095(822)0126
- ▽熊本総局 ☎096(362)5111 FAX096(362)5113
- ▽大分総局 ☎097(536)0111 FAX097(536)0112
- ▽宮崎総局 ☎0985(25)1331 FAX0985(25)1399
- ▽鹿児島総局 ☎099(222)9255 FAX099(222)9257
- ▽山口支局 ☎083(922)1106 FAX083(922)1402

施設病センハン

## 菊池恵楓園 地域開放へ

### 将来構想委 入所者9割が容認

国立ハンセン病療養所「菊池恵楓園」(熊本県合志市)の将来構想検討委員会は二十四日、園の地域開放などを盛り込んだ将来像の骨子をまとめ、検討委は入所者や行政、ハンセン病市民学会などの二十二委員で構成。全国に十三ある療養所の地域開放を可能にする「ハンセン病問題基本法」の四月一日施行を前に議論してきた。

骨子は「啓発」「介護医療」「社会化が三本柱。ハンセン病への差別や偏見をなくす活動の強化や介護・医療スタッフ充実、

地域間交流の重要性

園内の資料館や公園などの一般利用が具体的な協議項目となりそうだ。検討委では、約四百人の入所者に実施したアンケート結果も公表。それによると、園外からの一般市民の診療受け入れについて「構わない」「やむを得ない」と容認する意見が約九割に上った。入所者自治会の志村康副

会長は「高齢化で入所者が減る中、園が存続し、医療の水準を維持していくためには地域への開放が必要という意思を表した」と思ふと話した。

治療法をテーマとしたワークショップが二十八、三十日、北九州市若松区ひびきの北九州学術研究都市で開かれる。新治療法開発に取り組んでいる九州工業大学院生命体工学研究所の山川烈教授(脳情報工学)のグループが開催する。

山川教授によると、難治性てんかん患者は全国に二十五万人。従来は頭蓋骨を五、十センチ四方切り開き、脳の一部を数センチで切除していたため、健康な部分を傷つけ、言語障害などの後遺症を引き起こす危険があった。

山川教授のグループは頭蓋骨に直径一センチ程度の穴を開け、細い針状の器具で液体窒素カレトザーを使って原因部分を数

程度壊死させる技術を研究中。原因部分を正確に推定するコンピュータモデル開発にも取り組んでおり、本年度から四年間で確立を目指す。会場は北九州学術研究都市の大会議場。二十八日午前九時と二十九日午前九時半から、一般向けに山川教授やてんかん研究者の十四講演を公開する。入場無料だが参加登録が必要。申し込み・問い合わせは九州工業大学院・生命体工学研究所特別推進研究事務室(093(695)6123)。

てんかん治療のワークショップ 3月25日(水) 28、30日、九工大薬物治療が難しい「難治性てんかん」の新しい

治療法をテーマとしたワークショップが二十八、三十日、北九州市若松区ひびきの北九州学術研究都市で開かれる。新治療法開発に取り組んでいる九州工業大学院生命体工学研究所の山川烈教授(脳情報工学)のグループが開催する。

山川教授によると、難治性てんかん患者は全国に二十五万人。従来は頭蓋骨を五、十センチ四方切り開き、脳の一部を数センチで切除していたため、健康な部分を傷つけ、言語障害などの後遺症を引き起こす危険があった。

山川教授のグループは頭蓋骨に直径一センチ程度の穴を開け、細い針状の器具で液体窒素カレトザーを使って原因部分を数